

2022年7月11日

今月のひとこと

## 【Vol.235】 今月のひとこと

今月の  
ひとこと

先月もここに書きましたが、今回はその追加です。資産運用にはコントロールできることとできないことがあります。リターンはコントロールできません。しかし、リスク、コスト、資産配分はコントロールできます。コストはその代表例です。代表的な資産運用のコストというと投信の買い付け時に支払う申込手数料や毎年支払う管理手数料や投信が組み入れる株式などを売買するときの委託売買手数料があげられます。また、株式の個別銘柄の売買をしている場合には証券会社に支払う委託売買手数料あります。さらに税金もコストです。



ともかく資産運用にはコストが掛かる。まるで穴の空いたバケツに一生懸命水をためているようなものです。何十年にもわたってコストの高い商品で運用が続けられるダメージは膨大です。そして、そのコストはみなさんのリタイア後の生活を支える大切な金融資産からの流出に他ならないのです。仕組み債など到底、普通の生活者の方にはどんなリスクが潜んでいるのかわからないような投資商品を買ってしまったり、外貨建ての保険をリスクも十分に理解しないで買ったりするケースは言うまでもありません。

実は本当に大きな問題なのは、多くの場合、生活者がライフプランやファイナンシャルプラン、投資プランを明確には持っていないことです。そこで販売員に勧められるままに投資商品を買ってしまうのです。その結果、それらの金融商品が退職後のための資金の流出の原因になる恐れが大きいのです。本来、保有するポートフォリオは隔々まで自分の投資方針と整合性のあるものでなければならぬのです。

この問題の解決策は単純です。まず、アドバイスのみで生計を立てているプロのアドバイザーと契約を結ぶ。もちろん、ホンモノのプロのアドバイザーは金融商品を一切販売しません。その上でアドバイザーと共にどのような人生を送りたいのかライフプランを考え、それに基づいてお金の問題をファイナンシャルプランとして具体化する。そして最後にこのビッグ・ピクチャーと整合性のある投資方針書を策定し、それに基づき資産運用を行う。アドバイザーとは長い人生航路の伴走者としてライフプランから資産運用まで様々な生活の側面で有益なアドバイスを与えてくれる存在なのです。

残念ながらそのようなアドバイザーを専業でしている人は日本ではまだ少ないのです。相談者に忠実で、完全に独立し、商品販売をせず、知識・経験・倫理観を持つ物心両面でのホンモノのアドバイザーを増やしていくことこそ日本が抱える退職後のための資産形成にとって最も重要なことではないかと思えます。特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会~FIWA®」はそのようなホンモノのプロのアドバイザーを育成し、認定し、支援することを目的として活動しています。よろしければホームページをご覧ください。



## FIWA®からのお知らせ・セミナー予定

---

### FIWA®マンスリー・セミナー #202

開催形式 On Line

開催日時 7月17日 13:00～15:00

講演・講師

「大人と子供のためのハッピー・マネー®教室」

挨拶：社会にでて本当に役立つ学びとは 岡本 和久

講演：ボクらの日本一周どんぶらこ～きびだんご配って四千里 (石井 総一郎氏)

講演：庭の草を食べて生き延びた極貧からの脱出ストーリー (土井 広文氏)

講演：高校時代は「世の中大学」への入り口 (岡本 和久)

質疑応答：何でも聞いてみよう&人生相談

備考 参加費 無料

お申込みは [info@i-owa.com](mailto:info@i-owa.com) (担当：田辺) まで

---

### 第55回 FIWAサムライズ勉強会

開催地 オンライン

開催日時 7月28日(木) 19:00～20:45

実施形態 ZOOMによるオンラインのみ

講演 リスクを取らないことこそ、最大のリスク?!～回避すべきリスクと取るべきリスク

講師 イボットソン・アソシエイツ・ジャパン チーフ・インベストメント・オフィサー

小松原 幸明氏

備考 主催：NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

お申込先：<https://somerise.net/2022/06/22/1421/>

---

### FIWAマンスリー・セミナー #203

開催形式 On Line

開催日時 8月21日 12:30～15:30

講演・講師 岡本 和久 「アメリカ証券市場史」

びとろファアインancial・サービス(株) 代表取締役社長 尾藤 峰男氏「バークシャー・ハサウェイ年次株主総会に出席して」

備考 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---

## FIWAマンスリー・セミナー #204

開催形式 On Line

開催日時 9月18日 12:30～15:30

講演・講師 岡本 和久 「日本株式市場 明治から戦後まで」

三和 裕美子氏、太田 達也氏 「新指数（岡本・三和株価指数）発表報告」

備考 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---



今月号の記事をすべてダウンロードす

このページを印刷する

カテゴリー 今月のひとこと

タグ 【Vol.235】 2022年07月15日発行

2022年7月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

## 【Vol.235】最近の投資信託事情～果たして投信業界に『顧客本位』は定着したか

講演：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン(株)  
月刊「投資信託事情」発行人 島田 知保氏  
レポーター：赤堀 薫里

今回は投資信託を長年、観察し、研究してこられた島田 知保さんにお話を伺いました。投資信託の歴史と現状について、またずっと議題となっていた顧客本位の業務運営が投信業界に定着したのか、歯切れよく切り込んでくださいました。

投資信託を歴史的に見た場合、現在の状況はどうか。顧客本位が本当に定着しているのかどうかという点につきお話をします。日本の投資信託はドラえもんのポケットと私はよく言いますが、何か困ったときに、『投資信託で買ってもらおう』というスタイルで作られてきています。代表的な事例を紹介しましょう。



- 終戦後に財閥解体で株式が大量に市場に出回らなくてはならないときに、誰に買ってもらうのか。それでは国民に買ってもらおうと、投資信託を作る。
- 国債の大暴落がありました。メインの受け手の銀行が『これ以上引き受けられない。』となったときに、国民に国債を買ってもらう動きとなり、中期国債ファンドができました。
- 銀行の都合ですが、株式の持ち合いを解消するために、持っているグローバル企業の株式の時価評価をしようと、株式を市場に出回らせて上場投資信託ETFを作った。
- 不動産のバブルの大崩壊で、デベロッパーが自分たちのお金を投入することが苦しくなってきたので、不動産を流動化するために、一般の人たちに投資信託で買ってもらおうと、リートを作った。
- 東日本大震災の後、代替エネルギーを作るとなったときに、新しい市場を作ろうと、太陽光発電、インフラ事業にファンドで投資をしてもらおうとした。

今、議論されているのは、個人投資家にもプライベート・エクイティ。今までは機関投資家しかほとんど投資できなかったものを「投資信託に入れてもいいんじゃないの？」という議論が始まっているというように、みなさんに買ってもらいたいものがあるときは、投資信託を作っている。

『みなさんの資産が長期で大きくなるように』という目的ではなかったということが窺えると思います。そのドラえもんのポケットとして投資信託がポンと出てきた。投資信託を買わせられるのが個人投資家です。投資信託は顧客ニーズで作られたかということ、そうではなかった。今の投資信託は追加型がメインですが、ごく初期の時は、設定された時だけお金を集めて、あとは自由に売買できない単位型でした。そして3年や5年という期間が決まっている。その中で分配金を出していくという形の投信が中心でした。これは、株式を持ったことがない人たちに株を持ってもらうためです。「投資信託にして、定期預金のように持ってもらえばいいよね」と、定期預金とあえて似たような構造にしました。つまり誤解させるような構造で作上げたものが投資信託であり、投資信託の分配金であったということになります。

現状はどうであろうか。ネット証券が台頭してきたり、積立がじわじわと増えてきたり、インデックスが着実に売れてきていることに関しては、まさに顧客本位。顧客のほうがお利口になって変わってきている部分と、それに見合うサービスが提供されるようになってきている、ということが言えます。そうではない部分。回転売買とまでは言いませんが、特定のテーマのものや、トピックスのものを一生懸命売るといった体質に関してはあまり変わってはいないし、新しいものとしては、ラップ口座の営業を激しくやられている。この部分については顧客本位ではない状態がまだ続いていると言えるでしょう。

そうはいつでも、資産運用に投資信託はなくてはならないツールであるということやインターネット証券の利便性がさらに向上され、お年寄りの方たちにももっと使いやすいものになってもらいたいということや、つみたてNISAやDC、iDeCoの活用がもう少し幅広くできるようになってほしいものです。

また、手数料の安いパッシブファンドについては、ほとんど出そろっていると思います。メインの資産クラスについては、業界がなかなか宣伝をしません。もう少し普通の人でもアクセスできるように、ここだけ見ればこのファンドから選ばばいいということが、つみたてNISAのラインナップからできるようになればいいのかなと思います。

魅力的なアクティブファンドは、本当に運用方針やコンセプトがはっきりしていて、投資家ときちんと意思疎通ができている、投資家と共通の信念をもっているファンドでしょう。そのようなアクティブファンドが、10本、20本、30本と世の中に生まれてきてほしいというのが私の望みであります。

それによって不毛な投資信託の販売戦略をなくしていく。情報提供についても、それをしっかりウォッチしていくことによって、投資家が世の中を考える助けになるといった効用があります。それが世の中の考え方を反映しているということが確認できる、情報提供してくれるアクティブファンドが増えてくるといいでしょう。

そして良質な情報、データ提供がしやすくなる環境を作ることは、投資信託協会の使命だと思います。都合の悪い情報はぶつ切りにして出す、ということが今でも非常によく行われています。典型的なものは販売会社ごとのファンドの残高を出してくれれば、どこの販売会社がとんでもない売り方をしているのか一目瞭然でよくわかります。これが出てこないのが良識な情報提供が出てくるといいなと思います。

また少額でも積立で投資する習慣を学生さんのうちから、もっと啓蒙して拡大していくことが重要なポイントだと思います。やはり投資家が常識のある投資家になること。そして普通の消費者が常識のある投資家になれるように、ごく当たり前の情報が提供されていき、知ることの機会が与えられていくということが非常に大事ではないかだと思います。

講演では現状の投資信託の動向と、投資信託の歴史と現在、そして課題について、詳細なデータをもとに大変興味深いお話をいただきました。（文責 FIWA®）

## 島田 知保氏プロフィール

イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社 月刊「投資信託事情」発行人・編集長 2012年金融審議会「投資信託・投資法人法制の見直しに関するワーキング・グループ」、2017年同「スチュワードシップ・コードに関する有識者検討会」、2016年より同「市場ワーキング・グループ」委員

国際基督教大学卒。食品会社、宇宙科学研究所（現JAXA-ISAS）、衆議院議員秘書を経て1995年より投資信託の専門誌「投資信託事情」（1959年発刊）発行人・編集長。2008年、事業譲渡によりイボットソン・アソシエイツ・ジャパンに移り現在に至る。プロ向け、一般向けを問わず、一貫して長期・積み立て・分散投資やESG・社会的責任投資をテーマに活動。投資信託における問題と課題が主にその販売体と運用会社の出自にあることを指摘し、運用業の自立と投資家に寄り添うことを提言し続けた。幸せ作りの道具として、お金や金融商品と「あんしん」して付き合うことを提案し、イボットソンのモットーである長期・分散投資にさらに若年層に向けて積み立てを提案してきた。近年は投信のコスト低下、インターネット販売の定着、つみたてNISAや確定拠出年金の拡大など、一定の成果が果たされたと感じている。個人投資家の交流会「コツコツ投資家がコツコツ集まるタベ」共同幹事、「1億人の投信大賞」選考委員など、投資リテラシー向上のため、個人投資家に向けた任意の活動も行っている。

（文責 FIWA®）

## フリー・ディスカッション

竹中 | 僕は、ラップ口座を最初からバカにしていた、営業の話を聞いたことがないです。あれは、その人の属性をいろいろ聞いて、こういうメニューですよとアドバイザリー的なことはやるんですか？

島田 | ラップとか一任口座が出てきた当初は、富裕層のビジネスで、絨毯がふわふわのところ、そういうことをやっていたみたいでした。日本の場合、信託銀行は別としてそういう人たちの人数が非常に少なく、それではビジネスが成り立たなかった。そこで起きてきたことがラップの大衆化です。そうすると松竹梅のメニューとなり、ファンドラップが最近メインになっています。そうすると、最初の預け入れ金額も最初は1億、1億5千万と言っていたものが、100万とかね、そのようになってきています。そこで手数料が1.5%取られると投資家にとってメリットはほとんどないと考えた方がいいと思います。ロボアドの方がずっとましですね。



岡本 | 結局、業界としての図体が大きくなりすぎてしまっているの、なんとかそれを生かしておくために、あの手この手でいろいろ考えてやっているというのが本当のところじゃないですかね。

島田 | そうですね。もう一つ当社（イボットソン）の山口が言っていたことですが、富裕層のあり方がアメリカとは全然違います。超富裕という人たちが日本ではほとんどいないので、アメリカと同じようなビジネスが成り立たないということを言っていましたね。どうしても大衆化していかなくてはいけないということですね。

岡本 | 大衆化するにしても、もう少し投資信託の中でも、どういう投資信託が本当にいい投信なのか、投信そのものが悪いわけではない。過去の歴史の中でいろいろなことがあったにせよ、投信そのものが悪いわけではありません。本当にいい投信をちゃんと売ればいいだけの話。ただその際に金融機関はかなり規模を縮小していかなくてはいけないでしょうね。それはしょうがないですよ。それをしないから無理なものが出てくるんですよ。

島田 | まだ手数料ビジネスをしたい！というところが間違っていると思います。相続、高齢者に対するケアといったものに人員をもっと割いて、そういったところで、こまめに報酬をいただくということができれば。地銀なんかはやっていく方法はあると思います。しかしそういうまめなビジネスをしてこなかったから多分やる気がないんだ

と思います。

岡本 | 大量販売システムでやってきていますから。

島田 | アドバイザーでいうと、アメリカで起きていることは、人間に背中を押してもらわないと最終的な決断ができない人が圧倒的に多いということなので、ロボットアドバイザー・プラス人間のナッジというんですか。肩を叩くみたいな、サイボーグアドバイザー、機械と人間が合体したような、そういう対象向けのサービスが非常に伸びていることがあるようです。

岡本 | 結局、販売会社、証券会社、銀行にしろ、販売をしないと今のサイズを維持できないということであれば、そこに集中していくというのは企業として当然のことですよね。ただ、そこで問題になっているのは、強化する一環として、IFAというわけのわからないものを作り出して、そこがいろいろ活動しているという問題があります。

でもアドバイザーと販売員は違う商売です。私がよく使う例として医者と薬剤師です。医者は患者を診察してその人にとって一番いい処方箋を書く。薬剤師はその処方箋に基づいて薬を販売する。いい薬剤師は非常に適切な説明をします。薬を売る時に、『ちょっとこれを飲むと眠くなるから車を運転しないほうがいいですよ』とか、『熱が出るかもしれないから、その時はお医者様に電話してください』とか、そういう役立つ情報を必ず入れます。それも薬剤師としてのサービスの一環です。

でもお医者さんはそういうことは言わない。この処方がベストなんだという判断をする。アドバイザーというのは医者に相当して、薬剤師は販売員に相当します。その販売員というのが銀行、証券会社の販売員であったり、IFAという販売員であったりします。IFAは早い話、昔ながらの社外の歩合セールスマンです。販売員は販売員としてそれぞれ自分の仕事をちゃんとやってほしい。アドバイザーでもない人がアドバイザーを名乗って、それをセールスの材料とすることはおかしい。その一点ですよね。

岩城 | IFAは、独立系という名前がついているので、お客さんに『自分は証券会社で営業していたけど、どうも顧客本位の営業ができないので、辞めてわざわざ独立したんだ』ということをお話する方も多いようです。そういうことを面と向かって言われると信じてしまい、入り口のハードルは低くなる。でも最終的に、IFAであれば、今まで投資の基本について『長期・分散・コストも大事だよ』ということを一生涯懸命話していた人が、『それじゃあ私、投資をします！』と言うと、『このIFA口座で買ってください』と。そうすると今まで『ノーロードがいい』と言っていたのに、IFA口座で買うと手数料がいるのか、という話になります。そういうことをわりとやっています。

そういう話を聴いていると、顧客本位ではないんだろうと。自分の営業成績を上げるということが、その人たちの目的であって、アドバイスをすることが目的ではないんだなということが、相談業務を通じて私が日々感じていることです。

岡本 | 自称アドバイザーのアドバイスはセールストークですよ。だからアドバイスにお金を払わないというのは、生活者から見ると当たり前のことです。だけど本当に意味のあるアドバイスをするのであればお金は払いますよ。でもセールストークにお金を払わないというのは当然のことです。もっと金融庁が「アドバイザーという呼称をやめなさい！」と、はっきり言ったらいいんです。なぜ言わないのか知らないけど。

島田 | 「売る人がアドバイザーといったらはいけない」と、金融庁が言ってくればそれで終わるんですよ。

岡本 | イギリスだってアメリカだってみんなそうです。それはなぜかといったら、その国にとって、退職後の人々の生活資金をどうするのかということが、非常に大きな政治課題だからです。それが重要な問題だと思うからシビアな政策をどんどんとっているわけです。そこに目をつぶって、なんとなくナアナアの中で生き延びているところ

におかしさがあるわけです。結局、そのツケは生活者の将来のための資産からの流出になっている。やはり社会的な大きな問題だと思います。

岡本 | 最近は変わってきているけれど、投信会社というのが、販売会社というか大きい金融機関の子供みたいなかたちでいましたからね。親に売ってもらわないと生きていけないという中でずっと育ってきた業界であるということはありませんね。

今日もありがとうございました。

このページを印刷する

カテゴリー

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

タグ

【Vol.235】 2022年07月15日発行



2022年7月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

## 【Vol.235】しあわせ持ちへのロードマップ PART5 : DIY資産運用～ライフプランから投資方針書へ

講演 岡本 和久 CFA, FIWA  
レポーター 赤堀 薫里

今回は投資方針書の書き方についてのお話でした。投資方針書の項目の一例として、資産形成の目的、運用目標、期待平均収益率、投資環境の前提について具体的に解説いただきました。

最初に資産運用の目的をきちんとすることです。大切なのはいつもお話しいただいている「6つの富」です。健康、愛する存在（家族など）、交友関係、趣味、社会貢献、金融資産の6つの富のバランスがとれていること。その中の一つの要素として、お金の問題を位置付けて、品格のある資産家として、ゆたかでしあわせな人生を送ることができるための資産形成することを目的とする。これが投資目的の一例と言えるでしょう。



そのために人生を通じての資産運用を〇年〇月から実行する。これを宣言します。資産運用は人生を通じて金融資産全体の価値ができるだけ安定的に物価上昇を上回る率で増加するように管理していくプロセスとして定義付ける。このような目的をきちんと定める。

これはすごく重要なことだと思います。なんのために投資をしているのか。ただ単に短期的に博打で儲けるということではない、ということを確認する。投機と投資を間違えているケースがしばしばあります。投資も投機も有価証券に資金を投げ入れるわけですが、短期投資というのは価格の変動に賭ける。長期投資というのは、企業の成長に資金を投ずるわけです。

もうひとつ、専門家でも、投資と資産運用の違いを誤解している人が非常に多いということです。投資というのはあくまで個別の銘柄や投資信託に着目したものです。価値のあるものを妥当な価格で買い、価値の増加を期待する。あるいは割安性が修正される。それによって儲かる。それが投資です。

一方で資産運用にとって個別の銘柄の値上がり、値下がり、は、二義的な問題です。大切なのは資産全体の価値が安定的にどのように増えていくのか、これが目的です。資産運用のなかで資産形成は、就業中の人々が給料の一部を投資に回していく。そして自分の退職後のために積み立てていく。資産活用は、すでにある資産をできるだけ賢く運用しながら使っていく。滞空飛行期間をできるだけ延ばして使っていくということになります。

投資の目的に関連して、投資方針書の主な項目をここに挙げます。

目的：どれくらいの運用リターンを考えるのか

投資環境：景気、インフレ、金利などはどんな状態なのか

投資戦略：口座の開設から始まり、コア銘柄の選択と積み立ての手続き。必要があればサテライト・ポートフォリオをどうするのか。

これらの一連の作業を確認しながら書面にしていく。全体としてアセットアロケーションの考え方、売買の執行、モニタリング、リバランス。投資方針の変更なども文章にしておくで自分の行おうとしていることが明確になります。

このプロセスを行う上でアドバイザーの利用も有益です。その場合、金融商品を販売する販売員は相談相手としては不向きです。純粋にアドバイス業務を専業とするFIWA®認定のアドバイザーを採用することが良いと思います。

このような一連の流れがあります。これに沿ってやっていくということですね。

上記と関連して資産運用の前提になる部分があります。まず年間の平均収益率をどれくらいに想定するのか。何パーセントとはっきり言うことはできませんが、保有金融資産の購買力を維持することは絶対的な条件です。物価の上昇並みには資産を増やしていきたい。ただそれだけでは不十分です。そのうえでプラスアルファのリターンを狙う。長期的な投資リターンの目標は「購買力の維持+アルファ」ということになります。

投資期間は例えば30歳から始めれば65歳まで36年あります。30歳の時、積立てたお金は66歳の時に使います。31歳の時の積み立て資金は67歳の時に使います。原則、常に36年運用した資金を使っていけばよいのです。想定する実質リターンは一応前提として長期的な世界の実質経済成長率として予想される3.6%くらい。投資期間も約36年と考えます。3.6%で36年間運用すると、資産の額が3.6倍になります。これを岡本さんは「サブロクのルール」と名付けています。

それぐらいを前提として考える。中長期的な投資環境も一つの前提として考えておく必要はあるだろうと思います。細かいことは要りません。世界経済全体は基本的になだらかな成長を遂げていく。これからどんどん経済が悪くなって滅亡に向かっていくということはないでしょう。世界人口のなだらかな増加に加えて、全人類がより安全で豊かで幸せな人生への希求が成長の原動力になると思います。第4次産業革命による新産業の成長も期待できる。

世界経済の成長をけん引するのは、国や政府ではなくて世界の民間企業です。民間企業が生み出す付加価値が、長期的な投資のリターンの源泉になります。結論としては、世界の名目成長率並みに、株式の名目リターンが得られると予測します。現実にはやってみると年によってかなり違いが出ますが、名目GDP額と世界全体の株式時価総額を並べてみると、大体同じような長期トレンドになります。名目成長率は、物価上昇率（デフレーター）と経済の数量成長率の合計で構成されています。つまり全世界の株式インデックスに投資をすることで、購買力を維持しつつ、経済の数量成長（実質成長）を享受することができるのです。

今回の講演はDIY資産運用全体の復習も兼ねてのお話でした。まずはライフプランがあり、それに基づきマネープランがあって投資方針書がある。最後は、遺言に至るまでの一連の流のお話を分かりやすく解説いただきました。次回は『お金とこころ』というテーマでこのシリーズはいったん終了するという事です。次回の最終章が楽しみです。

このページを印刷する

カテゴリー

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

タグ

【Vol.235】 2022年07月15日発行

2022年7月11日

トリビア・コーナー

## 【Vol.235】知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



### 福本豊は国民栄誉賞をなぜ断ったか

スポーツや文化活動などの分野で顕著な功績を残した人物に授与される国民栄誉賞。この賞を辞退した人物としてイチローと昨年の大谷翔平の名はよく知られているが、実は1983年にルー・ブロックの持っていた盗塁記録を抜く939盗塁（通算盗塁数は1065）を達成した阪急ブレーブスの福本豊に国民栄誉賞の打診があったものの、福本氏は断っている。

その理由として、福本は「立ちションもできんようになる」と言ったと報じられた。ただ、その真意として後に「王選手のような野球人の手本になれる自信がなかったこと、麻雀や喫煙もたしなむため他の受賞者に迷惑がかかる」と考えたと述べている。

（追記）なお、没後の国民栄誉賞受賞者として、美空ひばり、長谷川町子、古賀政男、渥美清、吉田正、黒澤明、遠藤実、森繁久彌らがいるが、作曲家の古関裕而の場合は遺族が辞退している。よって辞退者はイチロー、福本豊、大谷翔平、古関裕而の4名となる。

### お払い箱

伊勢神宮の厄除けのお札に「神宮大麻」というのがある。この札を入れておく箱のことを「御祓箱」（お祓い箱）といい、箱の中のお札は毎年新しいお札に取り替えられるため、不要になった物を捨てることを「お払い箱」というようになったのである。さらに、解雇などの意味を有するようになった。

写真は伊勢神宮の神宮大麻（Wikipediaより）



### 兵隊さんの汽車（汽車ぼっぼの原曲）

日本の歌百選に選出されている童謡「汽車ぼっぼ」の原曲は昭和12年に発表された「兵隊さんの汽車」である。作詞した富原薫氏は当時御殿場市に住んでおり、旧陸軍の演習場があった御殿場線の御殿場駅で見た光景を歌詞にしたという

戦後、川田正子の歌によるレコードが発売されることになり、原曲の作詞者富原氏自身によって現在の「汽車ぽっぽ」の題名と歌詞に改められ、昭和20年の大晦日、NHKラジオの「紅白歌試合」（「NHK紅白歌合戦」の前身）で歌われた。

### 兵隊さんの汽車（歌詞）

(一)  
汽車汽車 ポツポポツポ  
シュッポシュッポ シュッポツポウ  
兵隊さんに乗せて  
シュッポシュッポ シュッポツポウ  
僕等も手に手に日の丸の  
旗を振り振り送りませう  
萬歳 萬歳 萬歳  
兵隊さん兵隊さん 萬々歳

### セメダイン（社名の由来）

当社は関東大震災のあった1923年（大正12年）に今村善次郎氏が日本初の合成接着剤「セメダインA」の製造販売を開始したのが始まり。



現在使われている「接着剤」、この言葉を作り出したのは創業者である今村善次郎氏だ。同社の創業当時には「接着剤」という言葉は存在しておらず、一般には「接合剤」または「膠着剤」と呼ばれていた。

### 野球はなぜ9回までなの

野球は9回裏（または9回表）までが正式な決まりだが、1800年代半ばまでは回数制ではなく、先に21点を取ったチームが勝ちという得点制だった。

しかし、昔の野球は真剣勝負のスポーツではなく、上流階級の遊びのようなもので、午後のパーティーまでの間に行っていた。しかし、先に21点を取った方が勝ちというのでは、終了時間が予測できずコックたちの不満が高まり、現在の9回制に移行したのである。

なぜ9回制になったのかは、数字の3の倍数がきっかけである。野球のプレイヤーは9人であり、3ストライクでアウト、3アウトで攻守交代など、3に関するものが多い。ここから野球は9回までとなった説が有力である。また、キリスト教には「三位一体」という教えがあり、3はキリスト教にとって聖なる数字で、「3」を3回繰り返せばより理想的なものになるという考え方から9回で終了するルールになったとする見方もある。

このページを印刷する

カテゴリー トリビア・コーナー

タグ 【Vol.235】 2022年07月15日発行

2022年7月11日

FIWA理事リレー投稿

## 【Vol.235】FIWA®代表理事リレー

### 科学が語る幸せの秘密

寄稿：FIWA®協会副理事長 原田 武嗣

先日、ハーバード大学のロバート・ウォルディング氏が2015年に発表したTEDトーク“The Good Life”(「何が良い人生を作るのか?」)(注1)を視聴する機会に恵まれました。

6年以上も前のYouTube ビデオ(この記事の最後をご参照)ですが、「科学が語る幸せの秘密」についてとても興味深い講演です。以下、本講演の概略と私たちがこの講演から何を学べるのかを紹介します。

講演の冒頭、同氏は、「私たちが健康で幸せな人生を送るために必要なものは何でしょうか。もし、あなたが将来の最高の自分のために今投資をするとしたら、どこに時間とエネルギーを注ぎますか?」と問いかけます。最近、ミレニアル世代を対象に「人生の最も重要な目標は何か」というアンケート調査を行ったら、80%以上の方が「お金持ちになること」と答え、また、同じ若者の50%が、人生のもうひとつの大きな目標は「有名になること」だと答えたとのことです。

しかし、お金持ちになったり、有名になったりすることで、幸せになる可能性が高まるのでしょうか?

フランス語で「L'argent ne fait pas le bonheur(お金は幸福をもたらさない)」という表現があるそうです。そして、これから紹介するハーバード大学の研究は、お金があれば幸せになれるわけではないことを裏付けています。

この研究により、私たちが幸せにするのはお金でも名声でもなく、ズバリ「良い人間関係を持つこと」であることがはっきりしました。この研究が示していることは自明のことだとも思いません。しかし、結局のところ、良い人間関係を築くことが幸せになるために不可欠な要素であることを忘れがちです。そして、お金持ちになるとか、有名になるとか、必ずしも幸せになるとは限らない目標を立てがちです。

それでは、同氏の講演の概略の紹介を続けましょう。

同氏は話します。「私たちは常に仕事に打ち込むように、もっと頑張るように、もっと達成するようになると言われ続けています。それこそが素晴らしい人生を送るために欠かせない事だという印象を持っています。でも本当でしょうか?本当にこれで幸せな人生を送ることができるのでしょうか?人生の全体像、その人の選んだ道や、もたらされた結果をとらえることはほぼ不可能です。人生について分かっている事の大半は人に昔のことを語ってもらってわかったことですが、ご存じのように昔は完璧に見えるということです。私たちは人生で起こったことを大量に忘れていきますし、記憶というのは時に極めて創造的なものです。」と。



同氏が責任者を務めるハーバード大学の成人発達研究は、「もし私たちが、時間と共に展開する人生全体を見ることができるとしたらどうでしょう？10代の頃から高齢になるまで、何が人々の幸せと健康を支えているのかを研究することができるとしたらどうでしょう。」という問いに答えるものです。

同研究は、これまで行われた成人期の研究の中で恐らく最も長いもので、75年間、724人の男性の人生を毎年追跡し、仕事、家庭生活、健康について尋ね、もちろん、彼らの人生の物語がどうなるかは知らずにずっと尋ねてきました。このような調査は極めて稀です。なぜなら、研究対象から外れる人が多すぎたり、研究資金が枯渇したり、研究者がテーマを変えてしまったり、死んだりして、跡を継ぐ人がなかったりするからです。しかし、幸運と何世代にもわたる研究者の粘り強さによって、この研究は存続してきました。最初の724人のうち約60人がまだ生きていて、そのほとんどが90歳代で研究に参加しています。そして今、彼らの子供たち2,000人以上を対象に研究を始めています。同氏はこの研究の4代目の責任者です。

1938年以来、研究グループは2つのグループの男性の人生を追跡調査してきました。最初のグループは、ハーバード大学2年生の時から研究を始めました。彼らは皆、第二次世界大戦中に大学を卒業し、そのほとんどが戦争に参加しました。二つ目のグループは、ボストンの最貧困地区の少年たちでした。彼らは、1930年代のボストンにおいて、最も問題を抱えた恵まれない家庭の出身であったため、この研究のために特別に選ばれたのです。ほとんどの少年が長屋に住んでいて、水道も温水もないところが多かったのです。

この調査に参加した10代の若者たちは全員、面接を受けました。健康診断も受け、家庭を訪問し、両親にも話を聞きました。そして、この10代の子どもたちは成長し、あらゆる職業に就く大人になりました。工場労働者、弁護士、レンガ職人、医者、そしてアメリカ大統領になった人（注2）もいます。ある者はアルコール依存症になり、ある者は統合失調症になった。ある者は底辺から頂点まで社会の階段を上り、またある者はその逆を行いました。

この研究では、2年ごとに、辛抱強く献身的な研究スタッフが男性に電話をかけ、彼らの人生についてもう1度質問を送っていいかどうか尋ねるのです。

ボストン市内に住む男性の多くは、「なぜ、私を研究したいのですか？私の人生、そんなに面白いものじゃないのに・・・」と。

彼らの人生を最も明確に把握するために、アンケートを送るだけではありません。リビングルームでインタビューする。医師から医療記録を取り寄せます。血液を採取し、脳をスキャンし、子どもたちから話を聞きます。

では、何を学ぶことができたのでしょうか。何万ページにも及ぶ生活情報からは、どのような教訓が得られるのでしょうか。その教訓は、富や名声、あるいは、より懸命に働くことではありません。この75年にわたる研究から得られる最も明確なメッセージは、次のようなものです。「良い人間関係は、私たちをより幸せに、より健康にしてくれる。」ということです。

この研究により、人間関係について3つの大きな教訓を得ることができました。

第一は、社会的なつながりは私たちにとって本当に良いものであるということ、そして孤独は死を招くということです。家族や友人、地域社会とのつながりが深い人は、そうでない人よりも幸せで、身体的にも健康で、長生きすることが分かっています。そして、孤独という体験は有害であることが判明しました。自分が望む以上に他者から孤立している人は、孤独でない人に比べて幸福度が低く、中年期には早くから健康状態が悪化し、脳機能も低下し、短命であることが分かっているのです。そして悲しいことに、いつでも5人に1人以上のアメリカ人が「自分は孤独だ」と訴えているのです。

そして、人ごみの中で孤独になることも、結婚生活の中で孤独になることも私たちは知っています。そこで、私たちが学んだ2つ目の大きな教訓は、友人の数だけでなく、コミットした関係にあるかどうかでもなく、親しい人間関係の質が重要であるということです。

争いの中で生活することは、私たちの健康にとって本当に悪いことであることがわかりました。例えば、愛情に欠けた争いの多い結婚は、健康に非常に悪いことが判明しました。おそらく離婚するよりも悪いでしょう。一方、良好で温かな人間関係の中で生活することは、健康を守ることに繋がります。そして、50歳時点でわかっていることをすべてまとめてみたところ、彼らがどのように年を取るかを予測したのは、中年のコレステロール値ではなく、人間関係にどれだけ満足しているかでした。

50歳のときに人間関係に最も満足していた人たちは、80歳になっても最も健康だったのです。そして、良好で親密な人間関係は、老いの苦しみから私たちを守ってくれるようです。最も幸福なパートナーである男女は、80歳代になると、肉体的苦痛が多い日でも、気分は同じように幸福でいられると報告している。しかし、不幸な関係にある人たちは、肉体的な痛みが増すと、その分、精神的な痛みも増すのです。

人間関係と健康について学んだ3つ目の大きな教訓は、良い人間関係は私たちの体だけでなく、脳も守ってくれるということです。80歳代で他人としっかりとした関係を築いている人は保護的であり、困ったときに相手を頼れると思える関係にある人は記憶がより鮮明で長く保たれるということがわかりました。そして、相手を本当に頼りにできないと感じるような関係にある人は、記憶力の低下が早いのです。また、良好な人間関係は、常に円滑である必要はありません。80代の夫婦の中には、毎日口喧嘩をしている人もいますが、困難な状況に陥ったときに相手を本当に頼りにしていると感じている限り、その口喧嘩は彼らの記憶にダメージを与えません。

つまり、良好で親密な関係は健康や幸福に良いというメッセージは、昔からある知恵なのです。なぜ、このようなことが理解されにくく、無視されやすいのでしょうか。それは、私たちが人間だからです。できるだけ手早く手軽な方法に飛びつきがちです。それが人生から幸福を遠ざけてしまうのです。人間関係は複雑で面倒だし家族や友人のために努力するのはちっとも魅力的ではありませんし、また一生継続しなくてはならないわけです。75年にわたる研究で、退職後に最も幸せだった人たちは、仕事仲間を新しい遊び仲間置き換えることに積極的に取り組んできた人たちでした。最近の調査のミレニアル世代と同じように、若いころの男性の多くは、名声や富、高い業績が良い人生を送るために必要なものだ本気で信じていました。しかし、この75年間のこの研究によると、最もうまくいっているのは、家族、友人、コミュニティとの関係を大切にしている人たちです。

では、あなたはどうでしょう？例えば、あなたが25歳、40歳、60歳だとしましょう。頼るべき人との関係はどうなっていますか？

その可能性は無限大です。電子画面と睨めっこするよりも人と向き合ったり、一緒に新しいことを始めて関係を深める、遠出したりデートをしたり、久しぶりに家族と触れ合うといったシンプルなことです。

最後に、同氏はマーク・トウェインの言葉を紹介します。100年以上前、彼は自分の人生を振り返って、こんなことを書いています。「人生とは短いもので、言い争ったり、謝ったり、腹を立てたり、責任を追及したりする時間はない。人には愛するためのわずかな時間しかないのだ。」

そして、「良い人生は、良い人間関係で築かれる。」とロバート・ウォルディング氏は講演を締め括っています。

(注1)The Good Life | Robert Waldinger | TEDxBeaconStreet,

The Good Life | Robert Waldinger | TEDxBeaconStr...



(注2)アメリカ合衆国第35代大統領ジョン・F・ケネディ

このページを印刷する

カテゴリー FIWA理事リレー投稿

タグ 【Vol.235】 2022年07月15日発行

# 合計197歳が 「100年に一度」を語りあう（後編）

経済評論家の三原氏と、本誌講師を務める澤上、岡本の3人が、巷を賑わす「100年に一度」について語り合った座談会。前号では投資と経済発展の関係など、多岐に触れつつ長期投資のおもむきについて語り合ってきた。今回はその続きとして投資の本質と金融危機後の考察を紹介していこう。

ゲスト：三原 淳雄氏

インベストライフ講師：澤上篤人、岡本和久



## 【三原淳雄氏プロフィール】

▶経済評論家。1937年、大分県出身（旧満州国生まれ）。59年、日興証券入社。ロサンゼルス支店長を経た後で80年に独立、(株)インパルス設立。99年、東証ベンクラブより長年証券界のために尽くした功績により、東証ベン文化賞を受賞。(社)日本商品投資販売業協会理事、日本IFA協会理事長、大阪経済大学大学院客員教授などを務める。レギュラー番組に「東京マーケットトゥデイ」(BSイレブン)などがあり、執筆活動や講演など幅広く活動。

## 金持ちが金を使わないと この国の経済は立ち行かない

**三原** 本来、長期投資は成功するもの。それを広く知ってもらいたくて僕は50年がんばってきたけど、定着しませんね、この国では。

ちょっとテレビできついこと言うと、文句が来るし。たとえば、この時期に株買ってくれる人には相続税をゼロにしたらいんじゃないかと。その代わり何年間かは売らずに保持するように規制しよう、と言ったら、「金持ちを優遇するのはけしからん」と叩かれる。だけど、金持ちがもっと金を使ってくれないと、この国の経済は立ち行かないのに。

**澤上** まったくです。

**三原** たとえば、ある株を「10万株まで、10年持てば無税」という方法をとれば、市場はすごく活性化するのに。

**岡本** 株式市場を活性化して株価を上げていくことがいかに大切か感じていないんでしょうね。

**澤上** 株価が上昇すれば個人の消費も企業の投資意欲も高まり、日本経済はもちろん国民の生活にも大いにプラスになるのにね。

**三原** 金持ち優遇はけしからんと言ってる連中は、資産効果の効用がわかっていない。税金で得た、株で得たというお金が最も消費性向が高いんだよね。

**岡本** バブルの時にあんなにも景気が良かったのは、株価が上がったからですね。

**三原** 株と土地も上がりました。だから90年ごろは「シーマ効果」と言われて3ナンバー車が売れた。数年前にもレクサスが一時売れ始めたけれど、やはり株と土地が上がった時期ですよ。

**岡本** 役人は、株価が盛り上がるもものすごい経済効果があるとは考えないんでしょうかね。

## 自国の通貨が強くなって 嘆くのは日本だけ

**三原** 日本の風潮がおかしいのは、いまだにGDP神話があるからですよ。つい最近までの好景気は、期間としてはあの「いざなぎ景気」を抜いた。ところが誰も好景気の実感はなかった。なぜならいざなぎの時は、名目が実質の倍くらいあって、個人の月給もどんどん増えていった。実際にはインフレが先行していたけれど、名目が増えると、人間、気持ちがいいんです(笑)。

**岡本** 今回は名目と実質が逆転し

Photo：池永一之

ているから、誰も名目のことを言いませんね。

**三原** これまでの日本の金持ちは、現金で持つのが正解だった。ところがこれからはそうはいきません。今後、新興国の景気が良くなってきて、彼らの生活が向上するにつれ、再び原油が上がり食糧が上がる。

**澤上** 将来的にインフレ方向にあるのは、もう目に見えていますね。

**三原** 新興国は金融危機があるからダメだという人もいますが、人間誰しも良くなりたいという欲を持っていますから。新興国が良くなるのは目に見えている。だとしたら日本は今がチャンスなんです。そのひとつの理由が円高ですよ。ふたつめの理由は、日本の企業が強くなれば、海外の企業を買い、油田や鉱山を買う。日本の国策にも沿っています。

今こそ、日本の企業にもっと体力をつけて、強くなってほしい。

**澤上** そのために今、株を買って企業を支えてほしい。

**岡本** おもしろいですよね。世界の主要国で自国の通貨が強くなって、嫌がっている国は日本だけです。他の国はみんな自分の国の通貨をどうやって支えようかと必死になっているのに。

円が安くなると株が上がる。これも変なものです。本当は円高→株高なんです。80年代にトリプル・メリットってあったじゃないですか。確かに円高になると過大に評価されてきた輸出産業などは一時的に厳しくはなりますけどね。

**三原** 今までが円安バブルだったんです。円安バブルで儲けただけ。

**岡本** 結局、円安バブルがあって、

今期の予想にしても、前期の決算にしても、膨らみすぎていたのが実体のほうに戻ってきて、それをみんなして減益だと大騒ぎしてるということですね。

**三原** トヨタが今、どんどん人員削減していますが、トヨタの利益の多くは北米で稼いだもの。国内はもともと赤字です。だからトヨタが払っていた法人税は、アメリカ人が払っているのと同じことだった。経済ってそういうもので、単純に考えれば理屈がわかるんだけど、今の日本って考えるのをやめている気がする。

僕はそうした潮流には逆らうことにしていますけど（笑）。そもそもマーケットは本来は逆張りでないで勝てない。だから資産家は恐慌時に仕入れて、ブームの時に去る。いつの時代もそうです。

### 金融危機が去ったあとはハイパーインフレがやってくる

**岡本** つい最近でも日経平均4000円騒動が出たときに買った人は大儲けしてたわけですよ。

**三原** 考えろというのはそこです。あのころは銀行バッシングで、銀行はみんな潰せというムードだった。だけどよく考えたら銀行を全部潰して一番困るのがわれわれです。

金融システムはわれわれの財産でありインフラです。決済できなくなるから潰せない。銀行が潰れる寸前の値段で叩き売られていたんだから、買っておけばいいんです。

**岡本** そういう意欲をすっかりなくしてしまうのが「100年に一度」という言葉ですよ。

**三原** 確かにすごいことが起きていることは間違いない。おしなべ

て上場企業のPBRが1を割っていることもそのひとつ。1.5ぐらいで評価している企業が、1以下で売られているというのは、ここ50年で初めての経験です。

**澤上** 配当利回りが長期金利を上回っているなんて、本当に久々ですね。

**岡本** 企業の成長性をほとんど評価していない。

**澤上** 長期投資家にとっては、一番おいしいところなのにね。

**三原** 世界中の金利がほぼゼロになったこと。これも初めての経験です。

**澤上** 将来えらいことになりますよね。今はみんな「金融危機だ。景気後退で大変だ」って言うんですけど、そんなものは3～4年のうちに収まります。

それより問題は世界中に金をばらまき、金利を下けていること。どこの国も財政赤字がひどくて、国債をどんどん発行していたら、最後はどうなるのか、みんな考えてほしいよね。

**三原** 景気は循環するんです。業績が良くなると必ずバブルになる。今度はそれを潰しにかかるから金が締まる。すると金がなくなって今度みたいな金融危機が起こる。つまり、まず業績相場があって、その次は逆金融相場ができ、金融が行き詰まる。この繰り返しです。

**岡本** 今後はどうなるか、一人ひとりが自分の頭で考えてほしい。

**三原** 各国政府は今、どんどん金を出している。アメリカなんて禁じ手の乱発でしょ。時価会計を緩和し、FRBがCPでも何でも直接引き受けると言い、そのうちサブプライムも買うと言っています。ところが景気対策はすぐには効かない。そして国民は目先しか考え



岡本 和久

ずに「もっともっと」と連発する。

**澤上** だから、お金のバラ撒きを景気がよくなるまで続けることになる。やめられないんです。

**岡本** いずれ、インフレがやってきますね。

**三原** 経済が循環するスピードも速くなってきている。もうDRAMは少しずつ上がり始めているし。

**岡本** 原油も底から上がってきています。

**澤上** もう一つはね、需要が上がりだしてくると、仮需が出てくる。でも生産ラインは一回落ち止めるとすぐには供給を再開できない。本格稼働にはかなり時間かかるんです。化学工場の場合などは再開するには2カ月くらいかかる。

**三原** 落ちる角度が急だったから戻ってくるのも急だという絵を描く人も多い。

**澤上** ミニバブルの到来ですね。

**岡本** 「100年に一度」と言っただけで、過去に克服できなかった金融危機はない。歴史を振り返ってみても、何千年もかけて人類の生活は良くなり続けている。時々不況になるけれど、終わらない不況はないんです。

今回は長いかもしれないけど、

でも必ず終わりますよ。

## トンネルに光が見えたときは時すでに遅し

**三原** この国はこれから投資家を育てなければいけないんだけど、まったく育てない。

**岡本** 本当の意味の投資家ですね。

**三原** そう。この企業はわが国の成長を助けてくれる企業で、わが家にとってもこの企業が大きくなるのは良いことだ。製品も素晴らしいから、この企業が外国勢に乗っ取られると困る。だから株主として応援しよう、と。こういう発想を持って投資する人がいない。

**岡本** 株価なんて見なくていいんですよ。持っているだけでうれしいと思える会社の株を持てばいいんです。

**三原** バフェットがそうですね。バフェットは、その会社が社会に役に立つ会社か、経営者はしっかりしているか、正直者か、横並びの圧力に屈しない人か、で選ぶ。

普通は買収すると経営者を入れ替えるけど、彼は「自分は経営者を選ぶ能力はない」と言ってる。だから入れ替えない。信頼に足る経営者がいる企業の株を買うから、替える必要がないんです。

**岡本** そうして株を買ったら放っておけばいい。

**三原** 彼は、自分の買った株は永久保存だって言ってる。売るとは考えていない。売ることがあるとしたら、それは経営者に信用がおけなくなったときなんですよ。

**岡本** 株主であることの喜びがある会社の株を持っていれば、株価なんて関係ない。

**三原** それには今は絶好のチャン

スですよ。5%の配当利回りで20年持っていたら、元が返ってくる。こんなチャンスはめったにない。

**岡本** それなのに、なぜ株価がこういう状態になっているかという、トンネルの中が真っ暗だからです。向こうにちらっと明かりが見えたときにこの株価では買えなくなる。トンネルは終わりだ、早く買わなきゃと思ったときは、もう手遅れ。だから光が見えないうちに買わなくては。

**三原** 春の来ない冬はない。必ず春は来るんだけど、どこで兆しを見るかが重要。去年のキーワードは「変」だったけど、僕は今年のキーワードは「兆（ちょう）」だと言ってる。まずは蝶の羽がぐーんと伸びるように金がばらまかれる。すると次は兆しが見えてくる。そしたら、その兆しに挑戦するかどうかを考えるわけです。挑戦の「挑」も手届に兆です。

**岡本** いいですね。

**三原** 「蝶・兆・挑」です（笑）。

今年は兆しが見えてくる年だと思う。事実見えかけているような気がするんだけどな。

**岡本** 予兆のない変化はないって言いますから。たとえば上海の株式市場がけっこう堅調になってきている。もちろんまだ予断は許さない。このトンネルは意外に長いかもしれない。だけどいつトンネルの向こうに光が見えるかわからないんだから、やはり時間をかけて貯めておくしかない。

**三原** だけど、すでに6割下がった指標で、今後さらに6割下がることはあまり考えられませんね。

**岡本** ないでしょう。だって株には価値があるんだから。ゼロには

ならないですよ。

## S社株を持っていたら 今は10億になっていた

**三原** 人生をどうやって豊かにしていくかしないかは、マーケットをどう利用してどう動くかで大きく変わるはずなんです。僕の場合、入社した時に試しに大借金をしてS社株を500円で500株買った。すぐに700円になって10万円儲けたのが過ちの始まりです。もしも売らずにずっと持っていたらと考えて、15年前に計算したらその時点で10億になっていた。

当時のS社の資本金が3億円。それを知って、長期投資家に変更したんです。当初から正しく株式投資を理解していたらと思うとすごく残念。

**岡本** 持っていたらすごいですね。

**三原** 僕は、株はトレーディングだと思っていたから、1万5000円くらいの月給の時に10万円儲けて天下を取ったような気分だった。自分は天才じゃないかとさえ思った。それで方法を間違えた。

**岡本** セブンイレブンやヤフー株もそうですね。最初に買って売らなかった人が大金持ちになっている。

**三原** ゲームウォッチが流行ったところに任天堂を買っていたら、とかね（笑）。

**岡本** ゲームウォッチってありましたね。懐かしい。

**三原** あのころ、任天堂の株価は1000円～700円くらいで動いていた。トレーダーは1000円で買って700円になったら、大損した、証券会社に損させられたって騒いだんだろうけど、今となってみれば

1000円も700円でも関係ない。だって、もし今も持っていたら1億5000万くらいになっている。

**岡本** みんな欲がなさすぎるんですね（笑）。

**三原** だから長期投資がいい。投信の手数料が高いなどと文句を言うのは大間違い。高くてもかまわないからそのかわりいい運用しろよ、と言うのが正しい。

**岡本** そうなんですよ。

**三原** ところが、どの投信も手数料を安くしているから、持っているほうもすぐに売ってしまって投信が育たない。僕だったら、買うときは安くしておくけれど、すぐに解約したら半分くらい手数料でいただきますよという投信を作る。たっぷりと懲罰的なペナルティを取るんです。そうでもしないと長期投資の土壌が育たないんじゃないかな。

**岡本** あとは税金でしょうね。譲渡益課税を長期の場合、安くする。

**三原** アメリカは1年かな。

**岡本** 1年です。1年以上だと税金が安くなる。

**三原** アメリカでは個人の住宅は基本的には無税で、自分の家なら2軒まで無税。売却益も50万までが無税。こんなに無税なら退職金がわりになる。だからアメリカ人は貯蓄しなくてもよかった。

## 「変化」と「不合理」が マーケットを活性化する

**岡本** 私たちは常に柔軟な思考でありたいと考えている。それはマーケットとつき合っているからかもしれないですね。常に固定的なものには裏切られているから。

**三原** 証券会社や投信会社では、



澤上 篤人

変化がすべて種になる。いい意味でも、悪い意味でも。だから変化に敏感です。逆に言うと変化がなかったらマーケットは立ち行かない。

有名な相場の格言に「株屋殺すに刃物いらぬ、寄り引け同値でザラバなし」という言葉がある。

**岡本** 動かなければ何にもできない。

**三原** マーケットが合理的には動かないから、逆にそこにチャンスがあると考えるし、だから証券会社も生き延びている。もともと日本人は潔癖なところがあって、合理的な結論をすぐ求めたがる。だけど今は不確実性の時代。合理的な考え方が通用するわけがない。

**澤上** たぶんほとんどの人は合理的と信じ込めて、なおかつ変化がない日々が続くのが好きなんですよ。

**三原** 今日と昨日と同じで、明日も今日と同じであってほしい。自分の立場が安穩であるほど、そう思うんだけど、日本は戦国時代を経験してる。その時の有名な言葉に、誰が言ったか「治に居て乱を忘れず」というのがある。「転ばぬ先の杖」とも言うよね。

**岡本** 本来、リスクとは不確実性のことを言うんですよ。そしてリターンは、そのリスクから生じ



る。そのことだけでもはっきり投資家が理解すれば、怪しい投資話にひっかかることはまずないんですけどね。

**三原** 何のためにマーケットがあるか、なぜサブプライムが大ごとになったのか。その答えは流動性の問題です。流動性があればリスクは自分でコントロールできる。1000円で買って950円でリスクを確定しようが、900円で確定しようが、全部自分が決めること。本来そのためにマーケットがあるんだから。

**岡本** 今回の場合には、流動性に伴うリスクっていうものを十分理解していなかったということなんでしょうね。流動性がないことによって売りたいのに売れなかった。

**三原** そう。それが最大のリスク。もともとマーケットは自然発生的に生まれたんです。

シカゴの穀物取引所が自然発生的に生まれたのも、最初から投機のために誕生したわけではない。穀倉地帯で、農家してみれば早めに利益を確保しておきたい。そこで今年の収穫を先物で売れば、ある程度の計画が立てられるけれど、その代わりリスクがある。上がったときには上がった儲けは相手のもの。その代わり下がったときのヘッジができる。本来これがマーケットの役目です。豊作がリスクになるわけですから。そうやっ

て生まれたのが穀物取引所です。

僕は1970年に興味があったから見学に行ったんですけどね。予想以上にすごかった。現地の人が説明してくれたんだけど、「世の中で商品化できないものは水と空気だけだ」と豪語してた。今や水も空気も商品になっていますけどね。

### 今こそ大チャンス 原点に戻った投資ができる

**岡本** 個人投資家が株式の投資をすることによって、思考の柔軟性を保てるというメリットがありますよね。年をとっても思考がカチカチになるんじゃないって、わりと弾力的に世の中見ていけるとか、何でも興味持てるとか。それはすごく大きなメリットだという気がしますね。

**三原** ただ、人と同じじゃないと安心できないというDNAからは早く脱してほしいけどね。

**岡本** 日本人はあまり投資に向いてませんよね。

**三原** うん、向いてない(笑)。宇宙から地球を見るぐらいの視点でこれからの世界見ていかないと。世の中がグローバルになってお金がどこに流れているか、ここでお金を流しているやつはどういう人物かといったことを常に頭で考えることが必要。中国人は向いています。というのは、中国人は国をまったく信用していない。

**岡本** 日本人のDNAに合った投資の仕方をしてほしいんだと思うんだけど、要はそれこそ田植えするようなつもりで投資をしていくといいかもしれない。

**三原** 1年で収穫できちゃうけどね(笑)。

**岡本** では、林業ですね。

**三原** 桃栗3年柿8年。まだ短い。

**岡本** (笑)。日本人の感性に合った投資の仕方がもっとたくさん出てきて、日本人の個人金融資産が向かっていくようになれば、そこに日本的なマーケットが形成されてくるんですよ。外国人の真似しているばかりではなくて。要はイスラム金融みたいに一つの大きな力になればいい。

**三原** 日本人は、お金は持ってるんだけどね。惜しい、本当に。

**岡本** そういう意味ではこういうチャンスってめったにない。一度に全部やる必要はないけど、今やらないと本当にもったいない。

**三原** 100年に一度の危機と言ってるけど、僕から見れば50年に1度の大チャンス。こんなことは僕の人生のなかで初めてです。だから一回原点に戻って考えてみませんかと言いたい。

投資とは何か。株とは何か。利益を出しているのは誰なんだ。利益の元は、どんなモノやどのようなサービスなのか。それは世の中に喜ばれているのか。世界中の人が欲しがっているのか。宇宙から地球を見る発想で見つめてみたい。

### 宇宙から見た視線で マーケットをとらえる

**三原** 僕はね、日本にこだわる必要はないと思う。日本では作って

いないもの、日本にはないものを海外に求めればいいと思う。

インフレになるのが心配なら、それこそブラジルやオーストラリアの鉱山会社を買うのもいい、これがヘッジです。そのうち資源が値上がりするにつれ、自分たちが生活で使うモノも値上がりしていきます。そこで値上がりする株を持っていればヘッジできることになる。

**澤上** そういうことですね。

**三原** そういうトータルで見たヘッジが大切です。

**岡本** 基本に戻り、株を持つということは、その企業の資産を持っていることにつながります。仮にモノの値段が上がっても、その企業がメリット受ければ購買力を維持していくためのヘッジになる。

**三原** モノの値上がりが大変だと思うのなら、根っこを押さえておけばいいということ。

**岡本** そうです、それが宇宙から見た視線です。

**三原** 今、グローバルっていうのは、宇宙から見ることだと思う。難しく考えずに、モノがどこからどこに流れて、その際、お金はどう流れるのか。それさえ押さえておけば自然とお金が流れそうなところにお金を置くようになる。

**澤上** もはや日本だけではなく、どこに投資してもいいと思いますよ。今、世界中がお金をばらまいている。だから資源だろうが、株だろうが、必ず何かが上がります。その何かを今、買っておかないと。現金や預貯金のままで置いといたら、大変なことになる。貴金属や穀物、商品でもいいし、モノを作る会社の株でもいい。何もかもがみんな安いんだから。

**岡本** しかも世界中が安い。

**三原** 分散投資がまったく効かなかったのはこれが初めてです。今までポートフォリオの基本は分散投資でしたが、今回ばかりは現金以外はすべてダメ。金も石油も債権もみんなダメです。幸い日本人は傷が浅い。キャッシュしか持てなかったんだから。

**澤上** ここで買わないと。

**三原** そう。今こそ何もしなかったメリットを生かすべき。なのにみんなが損した損したと大騒ぎ。冷静に考えれば大して損はしていないんですけどね。

世界で3200兆が株式市場から飛んだのに、日本の個人金融資産がどれだけ減ったか考えてみればいいんですよ。

**澤上** 1544兆から1434兆への減少だから110兆しか減っていない。

**三原** その18%が個人。全金融資産1500兆のなかで株式は10%しかない。仮に10%が半分になっても5%。まだ95%が残っている。

**澤上** 大事なものはその程度減っても人生終わりじゃないということ。あと50年くらい生きるとしたら、ここから将来のために何をやっておくかが大事なんです。やった人に比べて、やらなかった人や、やったことはやったけど方法を間違えた人は大変ですよ。

**岡本** それがまさに変化についていけるかどうかという話なんです。今までは預貯金が一番安全だと思っていたと、ひどい目に遭うことになる。

### 苦言を呈しても 投資の力を伝えていきたい

**三原** 僕は「あいつは一生投資家

のために苦言を呈してくれた」と、そうみんなが思ってくれたら生きた価値があると思う。だから耳に残らないような優しいことは言いません。覚えていてほしいからね。なぜなら自分がさんざん失敗しているからね。

株の理解が足りなかったから、資本金わずか3億円のS社の株主になっておきながら、すぐ売ってしまった。証券会社に就職し、株は安く買って高く売って手数料を稼ぐものだとずっと思っていた。気づいたときには、バフェットがずっと先に行っていた(笑)。

**澤上** 私も長期投資のパワーについては伝えたいですね。特に若い人たちに。

**岡本** 若い人には長い投資のための時間がありますからね。

**三原** 長期の株式投資は多角経営みたいなもんだと考えたらいい。自分がやりたいことはいっぱいある。だけどそんなにたくさんすることはできないから、やってるところに投資するんです。自分のお金にあっちこっちで働いてもらう。そう考えると株の見方も変わってきます。この会社は5年後もまだがんばっているだろうか。5年後は大きくなっているだろうか。いやきっと消えてなくなっているだろう、と。そういう視点から会社を判断するようになると、株に対する考え方も違ってくる。トレーディングこそじいさんばあさんがやるべきなんです。若い先短いし、やっていたらボケない(笑)。

**岡本** 今日明日の金を稼ぐためではないんですね。

**三原** そう。ボケ防止で朝起きたら、まずコンピューターに電源入

れて、バタバタやって、パチンコぐらい負けたなと思ったらそこでやめればいい。薬代がかからないポケ防止策。

**澤上** そして若い人は長期投資。

**三原** 残りの金で孫のために長期投資の布石をしておけば、お墓参りにも来てもらえます (笑)。

投資もいろんな形があるけど、若いうちからトレーダーやるのは時間の無駄。携帯にすぎったり、パソコンの前に座っているより、ほかにやることはいっぱいある。

**岡本** まったく同感です。若い人は時間を持っているんだから、時間を味方にした投資が不可欠。

**澤上** そしてタイミング的には今が最高。

**三原** しかも世界が生まれ変わろうとするときからスタートするわけだから、何でもヒントになる。

## ベンチャーへの投資の成功率は7%

**澤上** 78年から84年の間のアメリカはひどかった。長期金利が16%で、短期金利が19%。瞬間的には21%まで行った。もうめっちゃくちゃです。その少し前にマイクロソフトやインテルが生まれ、デルやアップルが大きくなった。シスコシステムズやサンマイクロシステムなど一番ひどいときに登場した。

**三原** 不況のときには、新しいイノベーションが出ますよね。その技術で世の中がガラリと変わる。

**岡本** そういう兆しを見つける姿勢が大切ですね。

**澤上** 投資していれば自然と見わかります。不思議なもので、これは買っておこうかなと感じるんです。変化は、国ではなく、まず個

人と企業に訪れます。未来を作る主体は常に個人と企業です。役人ではない。そしてその変化は、その場に参加していなければ感じられないんです。

**三原** 好奇心を持っていると世の中がどう変わり、誰が何を仕掛けてくるんだろうということに関心が向かう。自分が仕掛けられないなら、仕掛けている人に投資すればいい。負担にならない金額でいい夢を見て、うまくいったらすごいことになる。

アメリカの投資家は、ベンチャーに投資する成功率は7%ぐらいだと知っている。そこで彼らはまんべんなく種をまく。そこがアメリカ人と日本人の違うところです。日本人は完ぺき主義だから、自分が投資したところが全部成功しないと納得しない。失敗ばかりを悔やみます。

たとえばマイクロソフトあたりを買っていたら今大金持ちになっていますが、アメリカの場合は、最初からマイクロソフト1社を買うわけではない。同じような企業を数多く買って、その多くはつぶれている。日本ならつぶれた方を気にするけど、彼らは競合がつぶれたからこそ、この1社が伸びた。だからこれは必要経費みたいなものだと考える。日本人はそれができない。

**澤上** そこを割り切れるようになるといいんですけどね。

**岡本** トータルで見て、資金がどう増えたかが大事なんです。個別で勝った負けたというのは、些細なことですよ。

**三原** 自分が経営しているわけではないしね。他人が経営している

会社がうまくいかなかったって、自分が見る目がなかったというだけ。そもそも全体を増やすために投資しているのだから、トータルで見ないと。

## 仮説を検証する面白さ 投資は本来楽しいもの

**岡本** そもそも投資をスタートしないことには意味がない。

**三原** まず、さわかみファンドに入る。そして積み立てで少額を投資しながら彼の知恵を盗む (笑)。ファンドに入ると毎月運用を報告する手紙が来ます。澤上さんが間違えているなどと思ったら、解約すればいいことですし。

**澤上** 全部載せているから、全部見られてしまいますね (笑)。

**三原** 彼の考えていることがわかるから、何で彼はこう考えたのかとか、自分は違うなとか、彼は大きな企業しか入れていないけど、よく調べていくと、同じ絡みで小さな会社もある。ということは大きく伸びるのはこの小さな会社の方だろう、と推測するのもいい。それは何十倍にもなるかもしれないから押さえておこう、とかね。

**澤上** 勉強のための投資ですね。

**三原** そう。授業料を払うようなもの。そう考えていくと楽しいですよ。

どうしてみんな歯くいしばって目を血走らせて、びた一文損したくないと思うのか不思議です。投資とは本来楽しいもの。自分で想像しながら推理小説を書いていくような感じでストーリーを作っていくわけです。楽しくないわけではない。

**岡本** 多くの人が、自分で作って

いくのではなくて、教えてもらおうとする。要するに何が儲かる？という結論だけ知りたがる人が多いけれど、本来は自分でストーリーを作らないと。

**三原** ストーリーを作るそのプロセスが楽しいだけだね。

**岡本** 自分の仮説と実際のマーケットの検証をしながら、いろいろ考えていくのが楽しい。

**三原** こういう考え方をしていると、1日が長く感じます。興味がわくから、新聞の読み方もテレビの見方も違ってくる。ひょっとすると街の歩き方も変わってくるかもしれない。この店が流行っている、こういう色が流行っている。何でもヒントになりますから。

投資はおもしろいですよ。視野が広がるから、話題も人脈も人生も広がる。儲けは、楽しんだあとの結果なんです。

### 大恐慌も長い目で見れば トレンドの中のさざ波

**澤上** 今回のようなアクシデント的なことがあって、自分が持ってた株がガンと下がったとする。でも、まだ企業は生きている。だったら、長期投資家は黙って買っておけですよ。

**三原** マーケットとは、そうしたもので、そのときは大変だ、こんなに落ちてしまったと思っても、長い目で見ればさざ波です。僕は、何度もそんなことを経験してきている。

ITバブルがはじけて、ナスダックが半分以下になったことも、もうみんな忘れてる。ブラックマンデーでもこの世の終わりのような騒ぎになりました。でもこの世は終わっていない。その前にはオ

イルショック、為替切上げショック。何度もショックに見舞われている。あとから考えてみれば、どれもこれも長いトレンドのなかではさざ波だったと感じます。半値になったのは、あなただけではない。みんな半値になっている。そこで、ここからどう生き返るかを考える人と、あいつに買わされて財産が減ったと思う人とは大きく差がつくところなのです。

**澤上** 決定的な差になりますね。

**岡本** 株に投資すれば、こういうことに出合うのは当然で、それが嫌なら預金に預けてインフレにやられてください、という話になってしまう。

**三原** 何が起きるかなんて誰にもわからない。けどそんなことを気にする人は株式投資をやってはいけない。経済は最終的には必ず成長します。それを信じて、大きくなる会社を見抜き、その株主になりましょう、というのが究極の投資です。この発想を持つことで人生も変わりますよ。

たとえば、若いときから高給取りで平均年収が1千万だったとしても、働けるのはせいぜい40年。生涯年収は4億です。自分の力で稼ぎ出すお金は、サラリーマンで最大4億。年収200万の人なら8000万円。差がついたところでそんなものです。だけど、マーケットを信頼するかしないかで、僕とバフェットの差がついた。それを知り、そこから何を学んでくれるのか。成功を追いかけるのもいいけど、僕の失敗からも学んでほしい。それこそ若い人に伝えたい。

**澤上** みんなに第二のバフェットになってほしいですよ。



**三原** 自分一人の力なら、一生かけても差がついて1億と4億程度。それって40年間でならしてみたら、せいぜいちょっといい家に住むとか、息子が公立行ってるか私立行ってるかとか、どうってことない差でしかない。ところがバフェットの6兆円対8000万円。この差は大きい。

**一同** (笑)

**三原** 難しく考えることはない。自分が稼いだお金を使って、人が稼いでいるところで、もう少し稼ぎませんかというのが株式投資。しかも夢を託しながら。そして夢が実現するところが株式市場だから、チャップリンの言葉じゃないけど、人生に必要なのは「夢と希望とサムナー」。さわかみファンドを始めるお金があればいい。

**岡本** とても楽しい対談でしたね。ありがとうございました。



📅 2022年7月12日

動画紹介

## 【Vol.235】FIWA動画紹介

岡本 和久 CFA, FIWA  
岩城 みずほ CFP, FIWA, 社会保険労務士

FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目指しているのか

今回はFIWA協会理事長、岡本 和久と副理事長、岩城 みずほが活動のさまざまな側面について語り合います。  
FIWA認定会員のみならず、FIWA活動に興味のある方、ぜひ、ご覧ください。

**FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目指しているのか 第一回 (11'08")**

2019年秋にFIWA協会が設立されその後、どんな変化がありましたか？

2022年06月22日公開



**FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目指しているのか 第二回 (9'13")**

反発してくるのは業界の中で標準化されたことを壊すからだ (澤上篤人氏)

2022年06月29日公開





**FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目標しているのか 第三回 (9'12")**

FIWAの夢は「アドバイザー業務を独立した職業（プロフェッション）として確立したい」ということです。

2022年07月06日公開



**FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目標しているのか 第四回 (7'55")**

アドバイザーという職業について考える

2022年07月13日公開



<https://youtu.be/TWATfhp5jdE>

**FIWAって何なのか、どういう活動をしているのか、何を目標しているのか 第五回 (11'31")**

今回は海外のアドバイザー事情についてお話しします。

2022年07月20日公開（公開前にはご覧いただけません）



<https://youtu.be/ewTLEloOrUY>

このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.235】 2022年07月15日発行

# <モデルポートフォリオ:2022年6月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 270万円
4資産型	積極型	-2.04	2.03	7.88	12.17	14.23	-0.87	25.16	60.24	137.79
	成長型	-0.89	1.39	5.65	9.00	9.63	-0.39	17.11	39.73	96.88
	安定型	0.26	0.66	3.26	5.74	5.63	0.04	9.18	21.34	59.92
2資産型	積極型	-2.15	3.37	10.04	13.27	15.34	-0.07	33.70	73.56	177.54
	成長型	-0.49	2.92	7.41	10.14	11.01	0.72	23.90	49.87	124.60
	安定型	1.17	2.34	4.60	6.92	7.41	1.44	14.34	28.76	77.94

\* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2021年6月末に1万円投資資金を積み立て始め、2022年5月末の投資資金までとする(2022年6月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)まで。

## ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

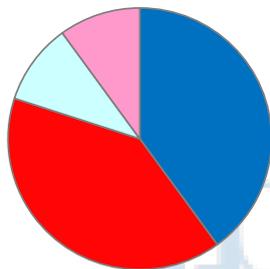
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

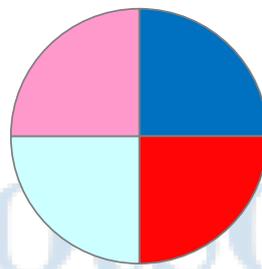
### 4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

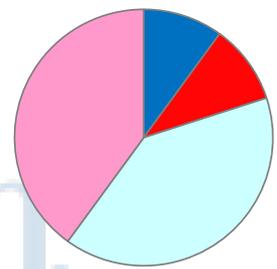
#### 積極型



#### 成長型



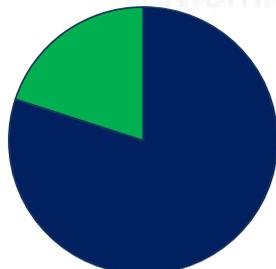
#### 安定型



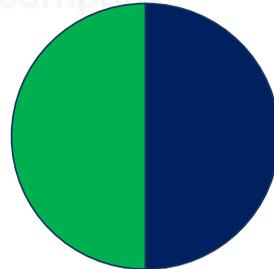
### 2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

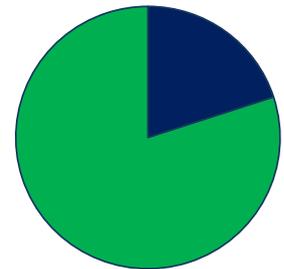
#### 積極型



#### 成長型



#### 安定型



# <純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2022年6月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。

今回 順位	前回 (22年 3月末) 順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2022年6月末		イボットソン 分 類
				1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 270万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 270万円	純資産 (億円)	
1	1	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	-2.0	11.3	—	—	—	2.0	—	—	—	12.2	—	—	—	12,548	18,301	外国株式・北米型
2	2	AM-One	グローバルESG/ハイクオリティ 成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	-3.3	-26.0	—	—	—	-20.4	—	—	—	9.6	—	—	—	8,060	9,333	外国株式・世界型
3	3	ゴールドマン・S	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	-2.2	-13.6	16.9	20.2	22.4	-13.7	40.9	143.9	372.9	10.4	84.5	292.7	1276.9	6,716	20,488	外国株式・北米型
4	4	アライアンス・B	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	0.0	-1.8	17.6	21.3	19.8	-5.9	52.5	154.6	—	11.3	91.5	305.5	—	6,267	42,083	外国株式・北米型
5	7	楽天投信	楽天・全米株式インデックス・ファンド	-2.2	6.6	—	—	—	-0.3	—	—	—	12.0	—	—	—	5,836	18,808	外国株式・北米型
6	8	SBI AM	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	-2.0	11.1	—	—	—	1.9	—	—	—	12.2	—	—	—	5,816	16,767	外国株式・北米型
7	5	AM-One	投資のソムリエ	-2.6	-10.4	0.3	—	—	-8.4	-4.7	—	—	11.0	57.2	—	—	5,784	10,949	アロケーション・リスクコントロール型
8	11	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	-1.9	5.1	—	—	—	0.5	—	—	—	12.1	—	—	—	5,597	16,241	外国株式・世界型
9	6	AM-One	グローバル・ハイクオリティ 成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	-2.5	-31.4	10.5	—	—	-22.7	11.0	—	—	9.3	66.6	—	—	4,778	21,519	外国株式・世界型
10	13	レオス	ひふみプラス	-3.0	-15.3	4.9	15.2	17.9	-10.4	4.7	62.6	—	10.8	62.8	195.1	—	4,434	43,689	国内株式・キャッシュバランス型
11	12	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	-2.5	-11.0	5.4	11.6	18.8	-10.1	12.0	47.5	95.1	10.8	67.2	177.0	526.7	4,334	28,062	国内株式・大型成長型
12	9	三井住友トラスト	次世代通信関連 世界株式戦略ファンド	-2.3	-24.1	—	—	—	-18.0	—	—	—	9.8	—	—	—	4,174	14,524	外国株式・世界型
13	17	ニッセイAMAM	<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国株式インデックスファンド	-2.4	7.4	12.9	—	—	0.7	46.2	—	—	12.1	87.7	—	—	3,894	25,310	外国株式・世界型(除く日本)
14	14	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド (年2回決算型)	-6.3	-9.4	12.1	—	—	-10.5	33.7	—	—	10.7	80.2	—	—	3,653	8,892	外国株式・世界型
15	10	日興AM	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	-2.4	-59.9	—	—	—	-40.0	—	—	—	7.2	—	—	—	3,377	10,689	外国株式・世界型
16	22	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	-2.4	7.5	12.9	—	—	0.8	46.4	—	—	12.1	87.8	—	—	3,297	19,155	外国株式・世界型(除く日本)
17	16	T・ロウ・プライス	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	-1.6	-17.2	—	—	—	-15.5	—	—	—	10.1	—	—	—	3,261	12,534	外国株式・北米型
18	21	さわかみ投信	さわかみファンド	-3.3	-6.3	4.4	10.8	17.7	-5.4	10.7	40.6	96.9	11.3	66.4	168.7	531.6	3,237	29,047	国内株式・大型ブレンド型
19	25	フィデリティ投信	フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース (為替ヘッジなし)	-4.7	5.9	—	—	—	1.8	—	—	—	12.2	—	—	—	3,214	21,390	外国株式・世界型
20	24	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	0.2	4.6	6.9	10.0	11.2	1.9	23.8	47.0	—	12.2	74.3	176.5	—	3,172	19,385	アロケーション・標準型

対象は追加型株式投資信託のうち2022年6月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF、DC・SMAなど専用投資信託を除く)。

積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2021年6月末に1万円で積み立てを開始し、2022年5月末投資分までの2022年6月末における運用成果とする(2022年6月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてご送信ください。

Copyright ©2022 Ibbotson Associates Japan, Inc.